

- ・生徒の発達段階に適応していたか
- ・生徒の欲求や経験は豊富になったか
- ・時間配当、配列は適切だったか
- ・季節との関連は適切だったか
- ・学校行事との関連は適切であったか
- ・施設用具の調整は適切だったか
- ・技能の向上はどうだったか
- ・社会性の育成はどうだったか
- ・健康安全の配慮は適切であったか
- ・施設用具の充実計画はどうだったか
- ②来年度の計画の方針をたてる。
- ・学級数と保健体育科担当数を把握する
- ・学校の教育目標を把握する
- ・生徒の身体的精神的実態を把握する
- ・生徒の生活の現状を知る
- ・施設用具の現状を認識する
- ・施設用具の充実計画をたてる

※資料 健康診断の統計 体力診断テスト、運動能力テストの統計、運動の施設用具の実態と充実計画、行事の反省資料、学年の配当時間、各領域の時間配当

(2) 資料を各自作成する。

2. 第2回の部会の内容

- (1) 原案を持ちより審議修正をする。
- (2) 年間計画を作成する。

3. 第3回の部会の内容

- (1) 年間計画を決定する。
- (2) 生徒用の計画を作成する。

Ⅱ 本校の基本的特質

1. 昭和41年度の学級数と保健体育科担当の職員数

- (1) 学級数 1年4学級 2年4学級 3年4学級 計 12学級
- (2) 保健体育科担当職員数 専任教諭男1名、女1名 計 2名

3. 施設用具の現状と充実計画 (基本資料参照)

(1) 全般の施設

①運動場 〃約6,000平方メートルで1人当たり約12平方メートル、1周150mのトラックが十分とれる。教科指導その他の体育活動に不自由を感じない。排水はよく霜どけもそれほどひどくない。

②体育館 〃バレーコート2面、バスケットコート練習用2面とれるので現状としては適当である。雨天の場合やや窮屈ではあるが、男女同時に学習させてもよい。

③プール 〃25m5コースあり。更衣室、便所共に男女別になっている。水泳指導には支障はない。

(2) 各運動種目関係

①器械運動。マット8枚、とび箱5台、ふみ切板5台、鉄棒高鉄3欄、低鉄5欄、移動鉄棒1欄がある。

・充実計画 マット2枚、とび箱1台ふみ切板1台、低鉄棒5欄

②陸上競技 ほぼ充実している。

・充実計画 砂場一面増設、ハードル5台

③剣道 指導者の関係で格技を実施していなかった。昨年度から剣道実施した。現在防具は指導者用1組、生徒用6組ある。

・充実計画 剣道防具6組

④球技 〃バレーボールコートは、体育館2面、運動場3面とれるので男女同時に学習しても支障がない。ボールも2人に1個以上ある。

〃バスケットボールコートは、体育館練習用2面、運動場2面とれる。

〃サッカーも正規のコートがとれるので指導上の不便はない。ボールが

やや不足である。

〃ソフトボールも指導上不便を感じない。

・充実計画 各種目ともにボールを12個ずつ補充する。

⑤ダンス 〃電蓄1台 タンバリン6個 レコード

Ⅲ 生徒の実態を把握する

1. 体位の面から (基本資料参照)

- (1) 身体・体重・胸囲・座高ともに全国平均よりは上位にある。
- (2) 男子は東京都の平均より全般的に上位にある。12才の胸囲は杉並区の平均より劣る。14才の胸囲は都、杉並区の平均より劣る。
- (3) 発育量からみると杉並区の平均より13才、14才ともに体重と胸囲の増加量が劣る。
- (4) 女子は、都、杉並区に比較して、体重、胸囲がやや劣る。発育量からみると12才と14才の胸囲が杉並区の平均に比較して劣る。

2. 体力の面から (基本資料参照)

- (1) 体力診断テストから
 - ① 男子は、筋力面はすぐれているが、敏しょう性と持久性および柔軟性に欠ける。とくに伏臥上体そらし、立位体前屈の柔軟性に欠ける。
 - ② 女子は、全般的に普通であるが、敏しょう性、しゅん発力、柔軟性に欠けている。

(2) 運動能力の面から (基本資料参照)

- ① 男子は、12、13、14才共に走、跳、投にすぐれけんすい力は普通である。
- ② 女子は、12、13、14才共に跳力、投力、けんすい力が劣る。走力、持久力は普通である。

3. 生活面から

- (1) 学校にいる時間は、女子よりも男子が長い。また、下級生ほど学校にいる時間が長い

本校は補習教育は全然やっていない。

- (2) すいみん時間は下級生ほど長く、3年は男女共に8時間に達していない。

4. その他の事項

- (1) 知能的水準は全般的にみると高い。
- (2) 生活程度も中流以上である。
- (3) 父母会の出席者は、毎回90%以上である。

Ⅳ 全体計画の方針を確立する

(教科と教科外活動)

1. 教科体育を充実させる

週2〜3時間で、もっとも基本的なことから学習させ心身の発達を促進し活動力を身につけさせる。とくに、体力の充実をはかる。とくに本校生徒の欠かんである次の点に留意する。

- (1) 男子では、柔軟性・敏しょう性・持久性の面に考慮を払い、筋力面についても継続して指導出来る方策を考える。
- (2) 女子では、敏しょう性・しゅん発力・柔軟性・持久性の面に考慮を払う。また、走力および跳力、けんすい力の指導にとくに留意する。

2. 運動生活を充実させる

① クラブ・サービス (C・S) を考える。本校におけるクラブ活動は、運動生活の推進となり、効果をあげていると考える。しかし、義務教育という点から考えて、生徒全員を対象にした全員がどこかのクラブに所属し実質的に活動に参加するようにしたい。活動は、全員を対象とした一斉活動の時間 (これは時間割の中にくみいれる) と、現在のような単一クラブ活動の時間としたら尚一層その層が厚くなる。

② プログラム・サービス (P・S) を考える。現状では、一年を通して、校内球技大会が1回だけである。この活動を盛んにすることが運動生活を充実することのほかに、生徒